

平成 23 年 度

中 学 校

入 学 試 験 問 題

国 語

45 分

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	--------	--

○ 受験番号・氏名は解答用紙にも書くこと。

\* 答えは解答用紙に書きなさい。

一 次の一線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- 1 この薬はよくキク。
- 2 激流を泳ぐのはシナンシナンのわざだ。
- 3 キンセイキンセイのとれた身体。
- 4 タイボウタイボウの合格通知を受け取る。
- 5 国民の生活をホシヨウホシヨウする。
- 6 これはとても重宝な道具だ。
- 7 おそろしい形相になる。
- 8 世界に向けて門戸を開く。
- 9 川の治水工事。
- 10 窓から光を採る。

二 次の方のことわざの空らんに入る言葉をひらがな二字で答えなさい。ただし、一つの問題に二カ所空らんがあるときには同じ語が入ります。

- 1   はあいよりいでてあいより   し。 2 転がる石に   は生えず。
- 3 絵にかいた   。
- 4 学問に   道なし。 5 とりつく   もない。
- 6 流れに   さす。

三 次の方の中から表現や表記が正しいものを四つ選び、記号で答えなさい。

- 1 ぼんやりして時間をいたずらに過ごしてしまった。
- 2 父親はけなげにも幼い子どもを助けた。
- 3 その本は校長先生が拝見されました。
- 4 異句同音に反対意見を述べる。
- 5 大勢の前で失敗したのできまりが悪い。
- 6 受験校までの所用時間を調べる。
- 7 客としていてねいにあしらわれた。
- 8 気のおけない仲間で誕生日を祝った。
- 9 わき役になったのは彼にとっては役不足だろう。
- 10 私は一番大事に思っているのは友情だ。

#### 四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を一部改変しています。)

大雪の日、帰ってこない宇佐子(5年生)を探しに出たお母さんは、転んで怪我をしてしまい、通りかかった宇佐子の担任の木村先生に助けられました。

宇佐子のお母さんの足首の骨は折れてはいないけれども、ひびが入っていた。もうちょっと力が加わっていたら、完全に折れているところだった。「松葉杖まつばづえを使って下さい」と言われたそうだ。そう言われて木村先生と宇佐子のお母さんは顔を見合わせた。お母さんの右の足首は真っ白い包帯でぐるぐる巻きになっていた。

包帯でぐるぐる巻きになったお母さんの足首を見ながら、宇佐子はミルクを飲む。湯気のたったミルクだった。舌に熱い。でもちよつと苦いのは、先刻さきさきからずつと黙だまっているせいだ。いつもの宇佐子なら、何も言えなくて黙っている時でも、テーブルに出されたミルクを飲む時はカップに口をつける前に「飲んでもいい」と聞く。そう聞けない時でも、目だけはお母さんのほうに向けて、飲んでもいいのかなという顔をする。お母さんの足は包帯でぐるぐる巻きだというのに、宇佐子はそっぽを向いたままミルクのカップに口をつけて熱いミルクを一口飲んだ。あんまり熱かったから冷たい生の人参にんじんが食べたくなった。でも、それも言わなかった。いや、さすがに素直に「人参を剥むいて」とは言えなかったのだ。何も言えない代わりに、ちよつとむくれた顔をしていた。

外はまだ雪である。とうとう宇佐子の家の前には大きな雪の壁ができてしまった。お父さんは会社から電話をかけて来て「今夜は帰れない」と言った。丸一日降り続く雪はほんとうに珍めずしくて、電車はどこもかしこも止まってしまっていた。動きが鈍にぶくなっている道路をむりに走っているバスに乗るよりも、お父さんは会社に泊まり込むほうを選んだ。テレビでは入学試験の開始時間を遅らせたという大学の校舎が映っていた。襟巻きかみをぐるぐる巻いた受験生がインタビューに答えている。千葉君だった。

宇佐子はテレビ画面を指さして「この人、知っているんだ」とお母さんに言いたかったけれども、ぐつと我慢した。お母さんは怪我をするし、お父さんは会社から帰れない今夜の夕食はホットミルクとホットケーキだった。佻わびしい食卓である。そのうえ宇佐子は黙っていた。何も言わない。テレビに千葉君が出て来た驚おどろきを言いたくてしかたがなくても口を閉じている。お母さんはほつため息をついた。

「そんなに刺とげのある顔をしなくてもいいじゃない」

宇佐子に言うのではなくて、お父さんに言っているみたいない方をした。それでも宇佐子はミキちゃんの悪口を言ったお母さんとはしゃべる気がしなかった。お母さんがため息まじりに言ったように、今日の宇佐子のだんまりには確かに攻撃こうげき的な刺とげがあった。

③ 沈黙は刺になる。沈黙の刺は時には、饒舌な刺よりもずっと鋭い攻撃の武器になる。宇佐子はそのことにこの雪の晩、少しだけ気がついた。千葉君のことをお母さんに話したいと思ったのをぐっと我慢した時、ようやく自分が手にした新しい武器の鋭さに気づいたのだ。お母さんのほうはもっと早くからちくちくやられていて、たまらなかった。なにしろ、足首はまだじんじん痛いような気がしていた。痛み止めの薬を貰ってそれを飲んでいたので、痛みは治まっていたのだけれども、宇佐子のかたくなな沈黙に突っつかれると痛くはないはずの足首がじんじんしてくるのだ。

痛み止めの薬はくれぐれも余分に飲まないようにと窓口でも言われたし、処方箋を持って行った薬局でも重ねて注意された。外科医院は家から歩いても十分とはかからない場所だけれども、お母さんはタクシーを呼んで家まで帰って来た。雪の中で慣れない松葉杖を突くのは不可能だった。お母さんに病院まで付き添ってくれた木村先生だって家に帰るにはさうとう苦勞したはずだ。それなのに宇佐子ときたら、黙っている。沈黙を片手にちくちくと突っついてくる。

学校が早く終わったというのに、まっすぐに家に帰って来なかったのは宇佐子が悪い。宇佐子もそう思っていた。

お母さんが心配するぐらいのことは想像できなくては困る。それも宇佐子が悪い。悪くないとは思っていなかった。

ミキちゃんの家に行くのは寄り道で、雪が降っていなくても寄り道はいけないことだ。それくらい宇佐子にもわかっていた。やっぱり宇佐子が悪い。

木村先生からもう一度、連絡するから待っていてと言われたのに帰って来てしまうのも軽率だ。宇佐子はそれはほんとうに悪かったなど思っている。

こうやって並べて行けば、宇佐子が悪いことばかりなのだ。でも、宇佐子はお母さんがミキちゃんを悪く言ったのは絶対に許さなかった。

宇佐子とお母さんの間にはびんど糸が張られているみたいなき緊張があった。いつもならその緊張の糸を弾いたり、切ったりしてくれお父さんは雪で会社に閉じ込められていた。

緊張の糸はますます強く張りつめて行く。宇佐子は自分が手にしている沈黙という武器がきらきらした氷みたいに鋭くて冷たいので驚いていた。これこそは雪の女王のほんとうの贈り物かもしれない。

宇佐子が鋭い刺のある沈黙を手にした夜、一晩中降り続いた雪は、一週間ほどたってもまだ街のあつちこつちに固まりになって残っていた。とくに、日陰の雪は夜が訪れるたびに凍り付いて、頑固な固まりになった。埃が雪の表面に付き、それがまた夜になると固ま

るから、白い雪に黒い埃で斑模様が出来ていた。日陰におかれた雪ダルマも情けない斑模様だ。宇佐子たちが通う学校の楡の木の下には六年生の作ったかまくらの屋根が落ち、小山になって残っていた。

宇佐子のお母さんの足はまだ包帯でぐるぐる巻きにされていた。足首に負担をかけないように松葉杖を使うことになっていたけれども、家の中ではそれも不便だ。④ 松葉杖は雪の日に寄り道をした宇佐子を無言で責めていた。お母さんはどうかすると、松葉杖を台所の食卓に立てかけたまま、足を引きずって歩いていた。そして、ときどき、宇佐子をじろりと睨む。宇佐子が沈黙を片手にちくちくやるつもりなら、お母さんはじろりと睨んで応戦していた。雪の一夜が明けて我が家に帰ったお父さんは、ちくちくとじろりの戦争が闘戦になって驚いた。驚いただけではなくて、ちくちくとじろりの冷たい戦争の間に挟まれてしまった。宇佐子は何も言わなかったけれども、宇佐子のお母さんは「ミキちゃんって非常識な子ね」なんて言ったし、「口数の少ないおとなしい宇佐子と違ふのよ。わざと口をきかないの。ばかにしているんだわ」などとも言ったし、お父さんにとってはじろりだけでは済まないのだった。ちくちくとじろりの間に挟まれて、「そうか、宇佐子もいよいよお母さんと互角のけんかができるようになったのか。これは愉快だ」などと思えるよ。うなお父さんではなかった。そんなことを言ったら、宇佐子にだんまりを決め込まれて苛立っているお母さんは爆発するに決まっていた。お父さんの頭に、⑤ 冷静で客観的な判断なんてものが浮かばなかったのが幸いだ。それにしても一夜明けてのこの変わりようはなんだろうとお父さんはしきりに首を傾げた。ただ宇佐子が寄り道をしたというだけの話とはとても思えなかった。

(注) \* 饒舌な…口数の多い、おしゃべりな。

(中沢けい『うさぎとトランプベット』)

問一 線部①「ちょっとむくれた顔をしていた」とありますが、なぜですか。

問二 線部②「お父さんに言っているみたいない方をした」とありますが、なぜですか。その理由として、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 黙ってテレビを見てそっぽを向いている宇佐子に、子どもらしくないものを感じたから。
- イ 黙ってテレビを見て何か言いたそうにしている宇佐子に、話すきっかけを作ろうと思ったから。
- ウ お父さんだったら、ホットケーキとミルクの夕食はあまりにも侘びしいといやがるだろうから。
- エ 「刺のある顔」という大人の言い方で、黙ってテレビを見ている宇佐子を責めてしまったから。

問三

——線部③「沈黙は刺になる」とはどういうことですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 沈黙してコミュニケーションを拒否することで、相手の不足を指摘することができるということ。

イ 沈黙してとげとげしい態度を取ること、相手との距離を保つことができるということ。

ウ 沈黙してコミュニケーションを拒否することで、相手を傷つけることができるということ。

エ 沈黙してとげとげしい態度を取ること、相手を傷つけて自分を守ることができるということ。

問四

——線部④「痛くはないはずの足首がじんじんしてくるのだ」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 薬を飲んでいるのだから痛くはないはずだと言われても、やはり痛いのは痛いのでどうしようもないから。

イ お母さんは宇佐子のこと、頭が痛いのだが、それを認めたくないので足首の痛みだと思おうとしたから。

ウ 痛み止めの薬は余分に飲まないようにと言われたのだが、そう言われるとかえって飲みたい気持ちになって足首が痛くなってきたから。

エ 本当に痛いのはお母さんの心なのだが、お母さんはその痛みを怪我をした足首の痛みとして感じたから。

問五

——線部⑤「日陰の雪は夜が訪れるたびに凍り付いて、頑固な固まりになった」とありますが、この雪を宇佐子とお母さんにあてはめるとどのようなことを表していますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 宇佐子がお母さんをないがしろにして友情だけを大切にすること。

イ 宇佐子とお母さんとの間に容易に溶けないわだかまりがあること。

ウ 宇佐子とお母さんの間に冷たく凍った不信感が生まれてきていること。

エ 宇佐子が入れた沈黙という武器で一方的にお母さんを責めること。

問六

——線部⑥「松葉杖は雪の日に寄り道をした宇佐子を無言で責めていた」とありますが、宇佐子のどのような気持ちを表していますか。五十文字以内で説明しなさい。

問七

——線部⑦「冷静で客観的な判断」とありますが、どういうことですか。次の文の空らんにあうように文中から三十字以内の部分を探し、その最初と最後の五字を書きぬきなさい。

お父さんが――

――と感ずること。

問八

——線部「ほんとうの贈り物」とはどういうことですか。本文全体の内容をふまえて、説明しなさい。

## 五

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を一部改変しています。)

① マーシャル・マクルーハンは、こんな話を紹介している。

二〇世紀の前半、あるアフリカの村で、白人の衛生監視員たちが、村人たちに、<sup>\*</sup>衛生の大切さを教える映画を見せた。上映後、監視員は、村人に「あなたたちは映画で何をみましたか」とたずねた。監視員は「手を洗っているのを見ました」とか「服をきれいにしているのを見ました」といった反応を期待していたはずだ。ところが、村人から返ってきたのは「ニワトリを見ました」という答えだった。一人だけではなく、みな同じことをいった。

監視員たちはとまどった。映画は衛生の大切さを説いたものであって、ニワトリとは関係ない。そもそもニワトリが映画に出ているはずなどなかった。いぶかしんだ監視員が注意深く映画を見なおすと、途中で、一瞬、画面の下をニワトリが横切る場面が見つかった。撮影現場のそばにいたニワトリが偶然カメラに映りこんでいたのだ。監視員たちは、このときまで、だれもそのことに気づいていなかった。しかし、<sup>①</sup>村人たちにとつて、この映画でもっとも印象に残ったのが、このニワトリだった。一方、監視員たちが伝えたかった映画の筋については、村人はまったく理解していなかった。

この話は、無文字社会の人びとが映画の内容を理解できないことを伝えているわけではない。人は、自分たちの約束事の中にあるものしか見えないのである。われわれが映画を見てストーリーを理解できるのは、そこに使われている約束事を学習して理解しているからだ。

たとえば、ドラマの中で男性の笑っている顔が映り、つぎに女性が照れている顔が映ったら、われわれは説明されなくても、二人が同じ場所で見つめ合っているとわかる。それはふだんからテレビや映画を通して、そういう映像の約束事に慣れ親しんでいるからである。しかし、そうした約束事を知らなければ、男と女の関係を結びつけては考えられない。監視員たちが上映した映画の中に、村人がニワ

トリしか見えなかったのは、唯一、ニワトリだけが村人の生活の<sup>②</sup>文法で理解できるものだったからである。

つまり、「見る」には約束事が必要なのだ。これは人間も動物も同じである。動物行動学者のティンバーゲンは、セグロカモメのヒナは餌がほしいとき、親鳥のくちばしの先にある赤い点をつつくことを発見した。ヒナは親鳥をその全体の姿で<sup>\*2</sup>認識しているのではなく、くちばし状の形とその先端にある赤い点として<sup>\*3</sup>把握しているのである。それがヒナにとって、親を認識するために<sup>\*4</sup>先天的に<sup>\*5</sup>プログラムされた約束事である。この時期のヒナには、たとえ赤い印をつけた棒であつても親鳥に見えるのである。

③ どうしてセグロカモメのヒナは親を全体として見ないのか。それは逆のパターンを考えればわかる。視覚に入ってくるすべての情報を分析してから認識するとなつたら、とうもない情報処理能力と時間が必要とされる。野生動物が、そんなことに時間をかけていては、自分の生存が危ぶまれる。そのため、いま生きるうえで必要な情報だけを取りだし、わかりやすくパターン化してイメージを作りあげているのである。

セグロカモメのヒナだけでなく、人間もほかの動物も、ありのままの世界や自然を、全体として認識しているわけではない。というよりも、ありのままの世界は、見たくても見ることができないのである。ありのままの世界とは、どこにも切れ目も境界もない連続体である。それは名づけようもなければ、認識しようもないものである。

② では、④ ありのままの世界とはどのようにイメージできるのか。それは生まれたばかりの赤ん坊や、先天的に目の見えなかった人が手術で目の機能を回復して、初めて目でもものを見たときに感じる世界に似ているかもしれない。脳神経科医のオリヴァー・サクスは、そんな患者が初めて自分の目で世界を見たときのことを書いている。そのとき患者は「なにを見ているのかよくわからなかった。光があり、動きがあり、色があつたが、すべてがごっちゃになつていて、意味をなさず、ぼうつとしていた」と語つたという。

ふつうの人は、部屋を見れば、手前にテーブルがあり、その上に花瓶があり、その向こうに壁があり、絵がかかつている、といったことをすぐに把握することができる。しかし、その患者はすべては見えていないのに、物や人の境界線、遠近感、関係などがわからず、色も形も動きもすべてがごっちゃにしか感じられなかったのだ。⑤ 脳に信号は送られていたが、脳はそれらを意味づけることはできなかった。

「見る」とは送られてきた信号を脳が意味づけることである。先の患者が体験したような、すべてがごちゃごちゃになつて世界に、切れ目を入れ、約束事やパターンをあてはめ、自分にとって理解可能なものに置きかえることによつて、初めて「見る」ことができる。生まれつき目の見える人は、このような作業を、生まれてからずっと行ないつづけている。ありのままの世界を、見ることはできないのである。

(田中真知『美しいをさがす旅にしよう』)

(注) \*1 衛生：身の回りを清潔にして、病気などを予防すること。

\*2 認識：理解し、判断すること。

\*3 把握：理解すること。

\*4 先天的に：生まれつき。

\*5 プログラムされた：あらかじめ決められた。

問一 線部①「村人たちにとつてこのニワトリだった」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ニワトリは、村人たちにとつて身近な生き物でありながら、ほかの生き物に比べて神聖なものだから。

イ ニワトリは、村人たちにとつて身近な生き物の中では、衛生的な生き物と思われているから。

ウ ニワトリは、村人たちにとつて身近な生き物であり、暮らしの上でかわりが深いから。

エ ニワトリは、村人たちにとつて身近な生き物であり、家族と同様に暮らしの中心だから。

問二 線部②「文法」とありますが、同じ意味の語句を①の段落から五字以内で書きぬきなさい。

問三 線部③「どうしてセグロカモメのヒナは親を全体として見ないのか」とありますが、その理由としてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 親を全体として見るには多くの時間がかかり、ヒナの身に危険が迫るから。

イ 親を全体として認識するのに必要な情報量が、視界から入りにくいから。

ウ 親を全体として見ると、くちばしの先端にある赤い点を見つけにくくなるから。

エ 親を全体として見なくとも、ヒナには、いま生きるのに必要な情報が十分だから。

問四 線部④「ありのままの世界とはどのようにイメージできるのか」とありますが、「ありのままの世界」の「イメージ」と関係が深いものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア テーブル      イ 壁      ウ 色      エ 光      オ 絵

問五

——線部⑤「脳にできなかつた」とありますが、どういうことですか。四十字以内で答えなさい。

問六

筆者は、「見る」とはどういうことだと考えていますか。六十字以内で答えなさい。

問七

次のア～エのうち、本文の内容と合っているものには、「○」、異なっているものには「×」と答えなさい。  
ア 村人は暮らす上で、手を洗うとか衣服を清潔にするとかいうことに関心がなかった。  
イ セグロカモメのヒナは、全体を理解できないので、赤い印をつけた棒を見ても、親鳥に見えてしまう。  
ウ 人はありのままの世界を見てから、それが何であるかを考え始める。  
エ 人は生きていく上で必要のないことは、ありのままの状態で見ないようにしている。

——  
お  
わ  
り  
——

